

外来で遭遇する重要疾病の経験数調査

藤岡雅司，足立公一，岡藤輝夫，神沢光江，絹巻 宏，熊谷直樹，阪口忠彦，阪口敏子，清水 健，高橋良明，武田義廣，武知哲久，西垣正憲，西村龍夫，橋本剛太郎，橋本裕美，日野利治、福田優子、藤関義樹、藤田 位

【目的】1. 開業医が外来で診る重要な小児疾患の経験数を調査し，日常診療で遭遇する頻度を得る。2. 参加者同士の情報交換，診療の質の向上を図る。

【方法】1. 対象：20 歳未満の外来受診患者，2. 期間：平成 14 年 1 月～平成 15 年 12 月（2 年間），3. 対象疾患：重要ではあるが，比較的経験することの少ない 10 疾患群で参加者自身が診断した症例のみ報告する。「〇〇の疑い」で病院に紹介し，後に確定された症例は含む。知らないうちに他の施設で診断された症例は報告対象としない。

【結果】1. 延総受診者数：690,853 人，2. 報告症例数：総計 402 例（1,719 受診者に 1 例の割合），疾患群別報告数は，（1）腸重積症 22 例，（2）急性虫垂炎 23 例，（3）尿路感染症 202 例，（4）細菌性髄膜炎 9 例，（5）病原性大腸菌感染症 3 例，（6）川崎病 82 例，（7）ムンプス難聴 2 例，（8）ケトン性低血糖症 47 例，（9）発作性頻拍症，心筋炎 報告なし，（10）悪性腫瘍 12 例

【まとめ】1. 外来小児科学の基礎的データを得る目的で，開業医が外来で診る重要な小児疾患の経験数を調査した。2. 報告疾患については，延 1,700 人余りの診察で症例 1 例に遭遇した。3. 診療に「リサーチマインド」を持つことにより，自己の診療を見直す良い機会となった。4. 更に質の高い調査を行うためには，診療の質の更なる向上が不可欠である。